高校野球 福島大会

福島民友 2021年（令和3年）7月9日（金曜日）

第2日

会津北嶺 夏1勝

創部4年、花開いた努力

第103回全国高校野球選手権福島大会第2日は8日、いわき市のいわきグリーンスタジアムなどで1、2回戦10試合が行われ、会津北嶺が10－2の八回コールドで葵との会津勢対決を制し、創部4年目で初めての夏1勝をつかんだ。喜多方は保原との乱打戦の末、10－9で勝ち、旧喜多方と旧喜多方東が統合して迎えた夏の初陣を白星で飾った。郡山東は小野・四倉・相馬農を14－1で、福島東は平商を16－0でそれぞれ五回コールドで退けた。第3日の9日は5球場で10試合が行われる。

【葵－会津北嶺】試合後、笑顔で仲間と喜び合う会津北嶺ナイン＝あいづ球場

会津北嶺 10－2 葵

会津北嶺が創部4年目で夏初白星を挙げた。三塁打を含む2安打1打点と躍動した主将の後藤裕希（3年）は「先輩に勝利を味わってもらうことができなかった。自分たちの代でやってやろうと思っていた」とかみしめた。

中学3年生で同校野球部の体験会に参加し、進路を決めた。夏の大会では大敗していたが、練習に打ち込む部員の姿を見て「この先輩たちとならしっかりと進んでいける」と確信した。毎日400回の素振りを欠かさず、ひたすら努力を重ねた。5点リードして迎えた八回。先頭の原太一（1年）を「お前が出塁したら俺がかえす」と送り出すと、原は二塁打で応え、そして後藤は約束通り三塁打で原をホームにかえした。チームは勢いに乗ってこの回3点を加点。初勝利をコールドで飾った。

チームは創部からの目標を達成したが、初勝利はあくまで目標の一つだ。後藤はすでに次を見据える。「目の前の相手に全力で勝利する。もちろん、これで終わるわけにはいきませんよ」（弥永真依）

一丸の葵下す

敗れた葵主将の渡部舜ノ介（3年）　3年生が3人しかおらず、チームづくりが難しかったが、しっかりまとまって最後の大会に臨めたので悔いはない。

【会津北嶺】打安点
④ 後藤 4 2 1
⑧ 嘉数 0 1 0
④ 十嵐 4 1 1
⑦ 五川 3 1 1
③ 歌城 3 0 1
① 宮川 1 1 0
① 皆利 2 1 1
② 大山 2 2 0
② 富雄 2 2 1
⑥ 佐藤 3 2 1
⑨ 怒賀 4 2 1
⑤ 原 4 2 0
33 13 8

【葵】打安点
⑧ 屋 5 1 0
5 土原 4 1 0
⑥ 石嵐 3 0 1
⑤ 五十間 2 1 0
1 笠部 2 1 0
⑦ 渡藤 2 4 0
② 佐口 1 0 0
⑨ 野原 2 0 0
③ 石沢 2 2 0
① 半野 4 2 0
8 平 27 7 2
④

【郡山】打安点
④ 伊東 3 1 0
4 川崎 0 2 2
⑤ 小椋 3 3 1
⑥ 伊藤大 4 3 0
⑨ 山本 3 1 0
1 半沢 1 0 2
⑪ 9 矢上 0 4 1
② 高橋 4 4 1
⑧ 永福 3 2 1
③ 中島 1 1 0
3 村田 2 0 2
H 水野 2 0 0
⑦ 藤田 0 0 0
H 藤 0 0 0
7 遠藤 29 15 13

【あさか開成】打安点
④ 高橋 2 1 0
⑤ 早坂 1 0 0
① 吉田 3 0 0
⑥ 柴田 2 0 0
③ 小野口 2 2 0
⑧ 服部 2 2 1
② 遠藤 2 1 0
⑨ 酒井 2 1 0
⑦ 我妻 2 0 0

◇1回戦　▽第1試合（9時1分）

福島明成	0	0	0	0	0	0	0	1		1
会津	2	1	1	1	0	0	0	1	×	6

▽暴投　熊谷2（福）▽ボーク　熊谷（福）
▽試合時間　2時間17分
▽審判　近内（球）目黒、神山、佐藤

【評】会津は13安打を放ち、序盤のリードを守った。室井の適時打などで四回までに5点を奪うと、先発星が5安打に抑えて完投した。福島明成は九回に1点を返したが、打線が振るわなかった。（弥永真依）

◇2回戦　▽第1試合（12時2分）

会津北嶺	3	1	2	0	0	1	0	3	10
葵	1	1	0	0	0	0	0	0	2

（8回コールド）
▽三塁打　歌川、後藤（会）土屋（葵）▽二塁打　五十嵐、原、大由利、皆川（会）笠間（葵）▽暴投　五十嵐（葵）
▽試合時間　2時間19分
▽審判　長沼（球）荒井、鈴木、渡部

【評】会津北嶺が集中打でコールド勝ち。初回に五十嵐の適時打などで3点を奪うと、その後も計13安打を放って効果的に加点した。葵は7安打で2点を挙げたが、11残塁と好機を生かすことができなかった。（弥永真依）